

# 東京桑野会会報

●2019年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階 新神田法律事務所内



No.41

安積歴史博物館（旧本館）  
画：母校美術科 櫻村俊智（98期）

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

ご挨拶

東京桑野会会長  
古川 清



戦争が終ったのは安積中学2年の夏だった。校舎は東芝の工場となり、教室には旋盤が並び中庭には大きな変圧器が据えつけられた。先輩達は市内の工場に動員され、その年の春4月には駅近くの保土ヶ谷化学工場でB-29の焼夷弾の直撃を受け6名が命を落した。大きな穴が掘られ、すべて蒸発して遺体も遺品も何一つ残らなかったと言う。私の世代は戦争の悲惨さと平和の有難さを身をもって体験している。

ところが現在世界では国連憲章を無視、自国の利益のみを求めて我が道を行く国々が増えている。各国の

軍事予算は増大しており欧州では廃止した徴兵制が復活しつつある兆候が見られる。時折私は戦争前夜の様な不気味な戦慄を感じることもある。

戦争は一寸したきっかけから始まることがあるから恐ろしい。その上次の戦争では核戦争に発展する可能性が高く、そうなれば文明は消滅、人類は滅亡の淵に当面することはまず間違いない。世界には今一万五千発もの核弾頭があり、その一発が広島型の何十倍何百倍もの威力があると言われている。世界の指導者達はこの事を十分に認識して欲しいと思う。

# 東京桑野会2019年度定期総会・懇親会のお知らせ

東京桑野会では下記の要領にて例年通り定期総会・懇親会を実施します。会員の皆様は、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

- (1) 日 時：2019年6月7日（金曜日） 16：00 受付開始
- (2) 場 所：『ホテル椿山荘東京』 [東京都文京区関口2-10-8]  
JR目白駅、または東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 下車  
電話 03-3943-1111  
椿山荘への交通・地図は、こちらから  
(<https://hotel-chinzanso-tokyo.jp/access/>)。
- (3) 会 費：懇親会費 ¥8,000 東京桑野会年会費 ¥2,000  
(合計 ¥10,000)  
121期以降の若手会員は、年会費・懇親会費合計 ¥6,000  
学生につきましては、年会費・懇親会費合計 ¥3,000
- (4) タイムスケジュール
- 16:00（午後4時00分）～ 受付開始
- 17:00（午後5時00分）～ 2019年度東京桑野会定期総会
- 17:30（午後5時30分）～ 講演会  
講師：影山任佐（79期）氏  
東京工業大学名誉教授  
日本犯罪学会前理事長・医学博士  
演題：精神医学と犯罪学の狭間で一人間学を求めて—
- 18:00（午後6時00分）～ 懇親会

東京桑野会では会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席できない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で、5月30日（木）までにご返送くださいますようお願い申し上げます。事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入してください。葉書にはアンケートもござい

ますので、ご協力ください。  
◇また、連絡もれがあるかと思われるので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2018年6月8日（金）に、平成30年度定期総会・懇親会として開催されました。郡山からのご来賓として母校安積高校の渡辺昇校長（90期）、校内幹事の染谷伸宣氏（105期）、安積桑野会会長の安孫子健一氏（80期）、安積歴史博物館の橋本文典氏（84期）の4名をお迎えしました。また、懇親会に先立ち、NPO法人医療制度研究会副理事長で医師の本田宏氏（86期）による『外科医36年を顧みて』と題する講演会を実施いたしました。懇親会会場に場所を変え、斉藤英彦会長代行（69期）の挨拶をかきりに、ご来賓のご挨拶を賜ったのち出席者最長老の長尾壮七氏（61期）による乾杯で懇親会が始まりました。総会・懇親会への参加者数は、来賓4名、学生会員10名、一般会員110名の総勢124名となりました。

## 母校便り

☆母校は今年（2019年）、創立135周年を迎えます。その母校の現在の様子を、母校からの情報をもとに紹介いたします。

☆「安高PTA便り」に掲載された母校教職員の方々の数を数えてみたところ、70名強でした。また、その中で安積OBは20名強でした。その一人にY先生（102期）が紹介されていました。紹介文を読むと、小生達の期（91）の担任をして下さっていたY先生（70期）のご子息のよう。父から子へ、安

積OBで2代に渡り母校で教鞭をとられる、私が知る初めてのケースでした。感激しました。他にもありましたら、教えて下さい。

☆安積に生まれた新しい伝統の一つ、安積-安積黎明 野球定期戦があります。2018年5月15日に開催された第12回定期戦は、11対1で7回コールドでの勝利でした。仙台一高・仙台二高の定期戦は“杜の都の早慶戦”と称されていますが、安積-安積黎明の定期戦が“楽都の早慶戦”と呼ばれ、新緑の季節の郡山の風物詩となることを、期待する声が多数でした。

☆様々な全国大会で活躍する現役生を紹介すると・・・。まずインターハイ

出場は、剣道部女子団体、硬式テニス部男子団体・男子シングルス、陸上部男子5000m競歩。高校総合文化祭は、写真部（個人）、新聞部。全国選抜高校大会にも、剣道部男子団体、硬式テニス部男子団体・男子シングルスが会場出場しました。合唱部は全国アンサンブルコンテストで銅賞を受賞。132期有志による科学の甲子園出場は、全国6位の受賞（東北1位）でした。将棋部女子も全国大会へ。すごいな、おめでとう！安積の風は薫風。

☆大学受験の状況を少しだけ紹介いたします。131期からは（2018年3月の卒業）、国公立大学へ計138名が合格しました。私立大学へは計294名が合

格しました。本号を編集している現在、まだ結果は分かりませんが、132期の皆さん、そして捲土重来を期している皆さんへ、春の訪れを祈っています。☆大学入試制度が2020年度から変わります。センター試験は2019年度(2020年1月)の実施を最後に廃止され、これに代わり2020年度からスタートするのが「大学入学共通テスト：共通テスト」です。そうすると、大学受験地図も変化するのでしょうか。縁あって東京へ出てきた出てくるようになった新しい安積OB・OGの皆さん、是非東京桑野会に遊びに来てください。

## 会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。( )は期、逝去された日。

渋谷善三郎(54期)(平成29年6月4日)  
 岩崎 博(55期)(平成29年11月24日)  
 富塚 博(57期)(平成24年5月14日)  
 大森 庸次(58期)(平成30年2月7日)  
 佐藤 恭二(59・60期)(平成29年8月20日)  
 和田 博(61期)(平成29年11月20日)  
 佐々木三郎(62期)(平成29年9月5日)  
 大津 隆(63期)(平成30年1月25日)  
 鯨澤 好雄(64期)(平成29年6月22日)  
 無津呂 雄一郎(64期)(平成30年4月3日)

管 英二(65期)(平成30年1月21日)  
 山賀 康正(65期)(平成30年3月31日)  
 田辺 靖人(68期)(平成28年)  
 渡辺 佳市(68期)(平成30年3月19日)  
 遠藤重太郎(69期)(平成29年9月16日)  
 相楽 俊一(69期)  
 熊坂 政治(70期)(平成27年10月)  
 佐藤 健剛(70期)(平成29年5月12日)  
 鈴木 明(70期)(平成30年5月10日)  
 大和田允彦(71期)(平成30年9月28日)  
 川越 清(76期)  
 鈴木 和男(77期)(平成30年1月20日)  
 國分 守(78期)(平成29年10月27日)  
 佐久間泰一(80期)  
 丹治 則男(81期)(平成30年5月14日)



## 135周年を 迎えて

安積桑野会会長  
安孫子健一(80期)

東京桑野会会員の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

常日頃は安積桑野会活動にご協力とご支援をいただきありがとうございます。お陰様で昨年度も滞りなく、各種行事や後輩への支援活動を行うことが出来ました。これからもよろしくお願いたします。

さて、今年は平成最後の年となり、本会報が発行される頃には新元号が発表されていることと思います。そして、母校が創立されて135周年になり

ます。明治・大正・昭和・平成と紡がれた歴史が新たな時代を迎えます。記念となる周年事業は計画されていませんが、5年毎に発行されている同窓会名簿を、今回も印刷することとなりました。個人情報取り扱いや、昨今の名簿情報を元にした犯罪等も懸念され、従来方式(紙媒体)の可否も含め慎重に内容の検討をさせていただきました。結果、販売方法や取り扱いに十分留意することで、実施することとなりました。会員の皆様には、ぜひ最新情報をご活用いただければと思います。併せてHPもリニューアルされていますのでご利用下さい。

ところで、安積では卒業生から3名の芥川賞作家を輩出しています。ご存知のように、30期生中山義秀、32期生東野辺薫、88期生玄侑宗久の3氏です。中山、東野辺の2氏はすでに鬼籍に入られましたが、玄侑氏は三春町

に在住し第一線で活躍されています。今年はその中山氏の没後50周年に当たります。氏は福島県民としては初めて、1938年「厚物咲」で第7回芥川賞を受賞し、1969年8月19日に68歳で亡くなるまで、戦前前後にかけて数多くの歴史小説などを執筆されました。私は一度だけ氏のお話を聞く機会がありました。安高創立80周年記念講演会での事でした。古武士のような風貌が強く印象に残っています。その後は、芥川賞受賞作家の一人という知識程度で特別の関心も持たず過ぎて来ました。しかし、昨年中義秀研究者である82期生、庄司一幸氏から著書「中山義秀、絶望のなかのキリスト」を当会に贈呈頂いた際に、今年が没後50周年になることをご教示頂きました。今年、各団体による記念行事等は、現時点では計画されていないようです。唯一庄司氏主宰の読書会が、5

ひととき、日々の喧噪を離れて。

そこには、さながら森のような庭が広がっています。  
 東京のまん中にいるとは思えない、静寂につつまれたやさしい時間を、心ゆくまで味わってください。  
 At Hotel Chinzanso Tokyo, we are honored to share this heritage with you through our services and accommodations and especially our legendary garden. Discover the essence of Japanese hospitality.

ホテル椿山荘東京  
 〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8  
 10-8, Sckiguchi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8680, JAPAN  
 TEL.03-3943-1111

世界をもてなす、日本がある。



HOTEL 椿山荘 TOKYO  
CHINZANSO

月末頃に郡山市中央公民館で講演会を開く予定と伺っています。ご興味のある方はご参加下さい。私もこれを機会に作品に触れてみようかなと思っています。

現在、福島県では生徒数の減少に伴い、県立高校再編が続けられていま

す。これまでは学校数を減らさず、学級数で対応して来ました。今年の新入生からは、福島・磐城も8学級から7学級へと変わります。8学級は安積のみとなりますが、いつまで続くかは不明です。将来的には、卒業生が減ることは確実の状況です。在校生にとって

は教育環境が大きく変わり、また同窓生の減少は避けられませんが、これからも桑野会会員の強い繋がり、母校の発展に寄与して参りたいと思いま

す。今年度も宜しくお願いいたします。



## 「朝河貫一と 高山樗牛」

安積高等学校校長  
渡辺 昇 (90期)

昨年6月8日の東京桑野会総会では大変世話になりました。1年ぶりに同窓生の皆様と歓談することができましたこと、大変うれしく思っております。総会の折に古川清会長からお話がありましたように、昨年は朝河貫一没後70周年と言うことで、全国各地で様々なイベントが開催されました。福島県においても、博士の命日に当たる8月11日(土)、県教育委員会主催による「朝河貫一没後70年記念シンポジウム」が福島市の県文化センターで開催されました。早稲田大学文学学術院教授甚野尚志氏(福島高校出身)による講演のあと、高校生5名によるパネルディスカッションが行われました。このパネルディスカッションには、朝河貫一賞(福島県教育委員会主催の国際理解・国際交流論文コンテスト)の受賞者3名(福島高校2名、あさか開成高校1名)と、本校の生徒会長と生徒会役員2名がパネリストとして参加しました。私もコーディネーターとして加わりました。

このシンポジウムを通して、朝河貫一博士の功績の偉大さを改めて実感するとともに、人間的な魅力にも触れることができました。参加した高校生からは、朝河博士の平和主義者としての行動を讃えるとともに、自分の強い信念に基づいて行動したことや研究者として努力を惜しまぬ一途な姿を見習いたいなどの感想が述べられました。夏

休み明けの全校集会では、朝河貫一博士の生き方に学び、広い視野で世界を見る目を持ち、これからのグローバル社会を生き抜いていってほしいと安高生に話しました。

さて、次に安積のもう一人の偉大な先輩である高山樗牛のことについて話したいと思います。といっても樗牛という名前についてです。

テレビの話で恐縮ですが、NHK「日本人のおなまえっ!」という番組をご覧になっている方もいらっしゃると思います。昨年9月13日放送の番組は、樗木(おおてき)さんという方が自分の名字の由来について尋ね、番組でその質問に答える内容のものでした。安積の同窓生の方は、樗という字を見て、本校第1期卒業生である高山樗牛のことを思い浮かべたことでしょうか。番組では、残念ながら高山樗牛については触れませんでした。樗木の由来を紹介していました。内容が同じなので、ここでは、中国の「莊子」に出ている話を引用します。

『日頃から莊子の話を大言壮語に過ぎないと、反感を持っていた恵子が、ある時、莊子を非難して「私は樗という巨大で姿形の悪い木を所有しているが、誰も目をくれない。大きいだけでまったく役に立たない木だ。あなたも日頃大きなことばかり言っているが、全く何の役にも立っていない」と。それに対し、莊子は、「狸やいたちは身を低くして獲物を狙い、機敏に走り回っているようだが、仕掛けに係ったり、網で捕らえられたりして命を落とす。牛は図体が大きく動作が緩慢なため、ネズミを捕ることはできないが、畑を耕すという大きな仕事をする。使役のない巨木を持っていることで、あなたは嘆いているが、なぜこの大きな木を広々とした土地に植えて、その下でのんびりと休養しようとしな

か。私が大きなことばかり言うと思っているでしょうが、それなりに意義があるのです」と説き聞かせたという話である。莊子は、一見役に立たないと思えるものも、見方を変えれば役に立つことがある、すなわち、「無用の用」ということを説いたというのである。』

自分が高校時代、樗牛の名前の由来を聞いたかどうか全く記憶がないのですが、樗牛の作品「滝口入道」を読んだことだけは覚えています。

研究者によれば、高山樗牛がこの号「樗牛」を用いるようになったのは、仙台の旧制二高在学中のこのようです。旧制二高から東京帝大哲学科に進学し、在学中に「滝口入道」を著し、非凡な才能を示しました。帝大卒業後は母校の二高の教授に招聘もされましたが、辞職しました。その後作家評論家活動に従事し、活躍が期待されましたが、結核を病み、31歳の若さでこの世を去ったことは、誠に残念なことです。

さて、高山樗牛は本名、高山林次郎(旧姓齋藤)で、山形県の鶴岡の生まれです。ここから余談になりますが、実は、私は鶴岡にはいささか縁があります。私の祖父(母の父)は、古川定衛といって安積中学校第28期生で、最後は鶴岡駅長を務めました。母も鶴岡で生まれ、育ち、結婚を機に郡山に移ってきました。今も鶴岡には叔父が住んでおりますので、格別の思い入れがあります。

最後になりますが、私はこの3月で退職となります。今後は一同窓生として、少しでも安積高校の発展に貢献してまいりたいと考えております。東京桑野会の皆様には、今後とも母校安積高校に対しまして、温かいご支援・御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。2年間誠に世話になりました。

## 安積の縁

青木 雄司 (113期)

安積で過ごした日々から、20年を経とうとしている。中学3年から、親の転勤に伴い千葉県千葉市から郡山市に引っ越し、高校卒業までの実質4年間のみの福島での生活——現在の実家は都内。実家という感覚が薄い——だったが、安積との縁は年を追うごとに強く深くなっている。安積にまつわるエピソードをいくつかご紹介したい。

私的な話となるが、高校の時に知り合った三春町出身の女性と2012年に結婚。これで福島との縁は切れないものとなったが、義理の兄・弟とともに安積出身。110期、116期で、私がちょうど真ん中の113期。さらに、義理の「母」も安積出身。「ん？」とお思いの

方もいらっしゃると思うが、御館分校卒。盆暮れ正月の帰省の際には義母、義兄弟とともに「嫩草萌ゆる～」と歌いながら、三春の地酒で一杯やるのが習わしとなった。

上述のように酒が好きで、飲み歩いているといろいろな出会いがある。社会人になりたての新宿の沖縄居酒屋での出会いも数奇だった。店主との世間話で福島は安積の出であると話をした際に、「確か、そんな名前の高校出身の常連客がいるぞ。今度、会ってみたら？」との提案。仲人のようにアレンジしてくれて、後日その店でご対面。超有名一流企業で活躍されている101、102期の先輩方3名をご紹介いただき、今でもご相伴にあずかりながら、相談をさせていただく機会を得ている。

また沖縄の話で恐縮だが、新大久保の沖縄ライブハウスで、とある大物沖

縄民謡歌手のライブに行った際の話。ライブが終了し、泡盛を片手に余韻に浸っていると、その歌手のサポートをしていた男性がテーブルまであいさつに来られた。話をしているうちに、沖縄出身ではなく、福島の出だということに。掘り下げていくと、やはり安積出身。119期。卒業後、沖縄の大学に進学され、沖縄の音楽に魅了されたとのこと。すべては、彼の才能と努力の賜物であるが、なんだかとても誇らしく、つつい泡盛を飲みすぎてしまった。

仕事面の話では、新卒で法人向けのアンテナメーカーに就職し、新人研修で栃木県にある工場へ。工場の総務担当と話をしていると、高校の話題。「ん？安積？いるぞ！」とのことで、当時、地デジ関係で繁忙を極めていた製造部門の課長が安積出身。95期。工場に行った際には、挨拶や仕事の話

不法電波は  
やめましょう！

技術と奉仕の無線機器部門  
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門  
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門  
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店  
富士通テン株式会社特約店

ATIS(自動識別装置)を  
必ず取り付けましょう！

# 株式会社 山口電機

www.yamaguhi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18  
水戸支店 水戸市中河内町67番地1  
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地  
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号  
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22  
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1  
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号  
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817  
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237  
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274  
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699  
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503  
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004  
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701  
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

だけでなく、お互いの安積関係の情報を交換するようにしており、工場に行く楽しみの一つである。

私の所属する部署に派遣社員の女性が入ってきたときの話。部の飲み会の折に、やはり、出身の話。福島→郡山→郡山二中出身ということで、「同じ中学ですね」と満足していたら、「高校は安積」とのこと。男子校時代の私にとっては、「女性≠安積」とのイメージのまま、脳内がアップデートできていないことには大いに反省した。121期。好きな応援歌は「唯に血を盛る」。硬派。

ところで、現在、私はそのアンテナメーカーより出向し、世界一の高さのタワー（固有名詞はあえて控える）で勤務している。観光地としては有名だが、そもそもは電波塔。また、実は各種の研究・観測拠点としても利活用されており、私は観光以外の部分の業務に従事している。先日、その研究機関の方がご視察に来られるとのことで、アテンド役を仰せつかることとなっ



た。事前にご来場される方の名簿を確認した際に、ある方のお名前に「ピン！」ときて、2018年度東京桑野会総会で名刺交換したその組織の別の方に確認を取ったところ、間違いなく86期、安積出身だとのこと。実は、その方、その組織のNo.2の方。当日、思い切って「安積の出身です」とご挨拶させていただいたところ、気さくにお話下さり、安積の縁があったからこそ…と思った次第である。

「安積」であるというだけで、グッと距離が狭まり、一緒に過ごした時間がなくとも「〇〇期」と確認しあうことで、先輩であれば敬い、後輩であれば「面倒見るぞ」と先輩風を吹かしたくなる意識が自然に芽生えるのは不思議で面白いものがある。また、出会った先輩・同期・後輩の活躍を見聞きしていると、安積で過ごした3年間で潜在的に切磋琢磨の精神を醸成し、各方面で活躍するように仕向けられているのではないかとすら思う。後塵を拝してはいるが、安積の名に恥じぬよう自

らも精進しなくては…と、この寄稿を機に、改めて決意する次第である。

(電気興業株式会社)

## 私の仕事と安積人脈

浅和 哲 (95期)

在日米国大使館から徒歩1～2分の東京都港区2丁目に、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)本部があります。職員は約600名ですが、その中で、安高卒業生2名、岩原達也さん(89期)と私が働いています。

まず、JOGMECについて説明させていただきますが、経済産業省資源エネルギー庁の所管の独立行政法人であり、我が国の国民生活・産業活動全般を支えるべく、①本邦企業が行う石油・天然ガス、金属鉱物、石炭、地熱の探鉱開発支援、②石油、石油ガス、金属鉱物の資源備蓄統合管理、③地方公共団体等への鉱害防止支援等、の事業を行っています。

ご存知のとおり、我が国の石油輸入依存度は99%を超えておりますが、岩原さんは昨年4月から理事・資源本部長として、資源生産国からの輸入途絶やさらに自然災害による特定地域への供給障害等の有事に備え、日本全国に設置された大規模国家備蓄基地を管理運営するという守りの仕事を、そして、私は、探査部門において、石油を発見すべく、積極的に海外に出て行く

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3  
TEL 0248-72-1555

攻めの仕事を、それぞれ担っています。二人とも、JOGMECの前身機関であります石油公団に就職しましたが、以来30数年、それぞれの分野で、時には同じ部署で、安高の先輩後輩という絆を礎に協力しあい、国益を第一にエネルギー安全保障業務に精励して来ました。今後とも、この関係を大切にしたいと考えています。

私の、具体的な仕事の中身は、「資源獲得の前線に立ち、石油地質学や地球物理学的を駆使して、地下深部にある石油を見つけるという仕事です」と言えば、いかにも格好よく聞こえますが、実際は千三つ（1,000本井戸を掘って3本当たる程度）と言われるほどリスクの高い世界で、石油をいかに当てるか！という、やや博打に近い仕事と言えるでしょうか。現場も先進国にある訳ではなく、大水深や極地、砂漠やジャングル地帯等、多岐にわたります。海外出張も多く、石油権益を巡り、産油国や外国石油企業との交渉において丁々発止とやり合う結構ハードな仕事でもあります（先日、出張中のアフリカの某国で交通事故に遭いましたが、かすり傷と軽い鞭打ちだけで済み、本当にラッキーでした。石油を当てずに、車に当てられた訳ですが（笑）、安高剣道部での連日の猛稽古で身体を鍛えていたおかげかもしれません。恩師の吉崎勝先生に感謝です）。

最近では、他の業界と同様に、石油開発の世界も環境問題、再生可能エネルギー、脱炭素社会等の流れに押さ

れ、大きな転換期にきています。企業自身もビジネスも、新しい変化やニーズに合わせてモデルチェンジしないと生き残れない時代です。そのような中で、我が業務の立ち位置はどうあるべきか、自分自身今後どのようにエネルギーに向き合っていくか、変化の風を逆に巧く捉えて走り続けることができるか等々、色々悩み深い日々を送っています。

最後に、JOGMECは国内外における日々の事業活動状況、世界のエネルギー動向等をHPに掲載しておりますので、ご覧ください。また、この寄稿文が、特に、将来の日本を担う若い方々に資源・エネルギーに興味を持って頂けるきっかけとなれば無上の喜びです。

（独立行政法人JOGMEC 探査部長）

それでも、「書いて」生きていく。

渡辺（旧姓：熊谷）絵里奈  
（118期）

放課後のギ同の部室。先輩やバンドメンバーたちが奏でる轟音。自作の小説と詩で溢れたノート。友人と貸し借りしては感想を語り合った小説。

安積で過ごした三年間の記憶は、「音楽」と「文学」に彩られている。

昨年、伝説のロックバンド「クイーン」を題材にした映画「ボヘミアン・ラプソディ」が大ヒットを記録した

が、中学生でこの名曲に衝撃を受けた私は入学早々、友人たちとバンドを結成した。クーラーも防音設備も、マイクすらもない部室で汗まみれになりながら、楽器の音に負けじと声を張り上げる。体の奥底から迸る、やり場のない気持ちをぶつけるように歌う時間は、他では感じることのできない「魂」の充実。「青春」そのものだった。

授業中は小説を読むか、創作活動に勤しむのが常。脳内に自動再生される、行き場のない迷子のような言葉たちを、毎日ひたすらノートに書きなぐった。

「特別な才能を持たない自分は将来、何者かになれるのか？」

過剰な自意識と劣等感の狭間で、自らを表現する術を必死に探していたのだと思う。

勉強時間は皆無で、ただただ音楽と文学の世界に耽溺した高校時代。

当時の熱量を上回る「何か」を見つけることが、その後十年以上、人生の「至上命題」として重くのしかかった。

大学進学後も将来は見えず。一度は小説家を志したものの、太宰治や三島由紀夫のような文才がないことはすぐにわかった。それでも諦めきれず出版社を受けるも、不合格。全く興味のないIT企業に就職し、無気力で自堕落な日々を過ごした。

\*

安高卒業から十余年。私は思わぬ形で当時の夢を叶えることとなった。

著者に代わって本を執筆する「ブッ

故郷を味わう、故郷に触れあう

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷりで  
ヘルシーな そば・うどん  
夜は品揃え豊富な  
東北の地酒で一杯

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 ☎03-3213-2385  
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 ☎024-984-3774 <店主>上野千恵子

ライター」という仕事を始めたのだ（「ゴーストライター」と呼ばれることもあるが、奥付に名前も載る列記とした表仕事）。

自他共に認める不良学生だった私が、今では丸一日、寝ず食わずで原稿に向かう生活を送っている。作家とは少し違うけれども、本を書き、その印税で生計を立てられるようになったのだ（何の因果か、今年十年以上ぶりにバンド活動も再開）。

安積で過ごした極彩色のような三年間は、生涯忘れ得ない。勉強こそしなかったが、音楽に没頭し、文章に耽溺し、自身の存在意義を問い続けたあの日々が、今私が紡ぐすべての文章の原点になっている。

今回、職業ライターとして母校の会報に寄稿する機会を賜ったことは感慨深い。安高生当時の私が知ったら、どんな顔をするだろうか。

## 私の検事人生と 安積人脈

國分 敬一（90期）

私は、平成30年4月に松江地方検察庁検事正として30年に及ぶ検事人生を終え、同年6月から、名古屋の熱田公証役場で公証人として第二の人生を踏み出しました。

私は郡山第一中学の出身で、昭和52年に卒業（90期）後、中央大学法学部法律学科に入学、同56年に卒業し

て司法試験に挑戦、同60年に27歳で合格、2年間の司法修習生を経て、昭和63年4月に東京地検検事として任官し、検事人生が始まりました。

検事人生には、2年から3年の頻度で全国規模の転勤がつきもので、私もその例にもれず、平成元年4月佐賀地検検事、同4年4月水戸地検土浦支部検事、同6年4月東京地検検事、同7年4月横浜地検検事、同8年4月青森地検八戸支部長、同10年4月東京地検検事、同12年4月福島地検三席検事、同15年4月東京地検八王子支部検事、同17年4月東京地検検事、同19年4月公安調査庁総務部審理室長、同20年4月同庁調査第一部第二課長、同22年4月名古屋地検公安部長、同24年4月札幌高検総務部長、同25年8月東京高検検事、同26年1月さいたま地検熊谷支部長、同27年4月千葉地検松戸支部長、同28年4月最高検検事、同28年9月松江地検検事正、同30年4月検事退官、と長くなりましたが、平成の検察の歩みと共に私の検事人生がありました。

私が検事を志すに当たっては、片面的でしたが、安積人脈が大きく影響しました。

東京でロッキード事件が進行している最中の高校二年の夏、地元福島県では県庁汚職が摘発され、当時県内で絶大な力があつた県知事を福島地検が逮捕、起訴するという大事件があり、なんとその主任検事が我が安積の大先輩である宗像紀夫先生でした。

もちろん宗像先生とは一面識もなく、検事の仕事自体も全く未知の私でしたが、県知事をも逮捕できる権限を有する検事の魅力に惹かれ、志を立て、難関の司法試験に挑戦し、合格できたのも、安積の大先輩である宗像先生が検事として活躍している片面的安積人脈があつたからでした。

その上、転勤に伴う見知らぬ土地での新たな出会いの中で人間関係を構築しながら、検事の職責を果たしていくためには様々な困難に遭遇し、時には、挫けそうになることもありました。が、何より安積で培われた開拓者精神がその大きな支えとなりました。

私にとって、検事人生を歩む原点となつたのが安積の人脈であり、検事人生の支えとなつたのが安積の開拓者精神でした。

こうして法と証拠に基づき、事案の真相を解明し、法秩序の維持と安定を図るという検察の仕事に全力で取り組み、検事人生を無事全うすることができたのも安積の存在があつたればのことでした。

これからは今までの経験と知見を活かしながら公証人の仕事をしていくこととなりますが、そこでもまた、安積人脈に支えられ、助けられることになるかと思います。

皆様、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

（熱田公証役場 公証人）

## 拝啓 東京桑野会の皆さま

遠藤 綾夏（127期）

お元気ですか。

私たち127期が安積高校から送り出

され、もう5年が過ぎました。早い人では、社会人1年目を終え、仕事にも慣れた頃でしょう。私は周囲の理解と支えのおかげで、現在はまだ学生です。今年は4年生ですが、もう暫くは学びの場に身を置きたいと考えています。

帰省する度にと言つていいほど、私

はよく卒業アルバムを開きます。5年前のままの懐かしい顔が並ぶ、紫のずっしりと重いアルバム。「夏休みが“休み”でない」と口を揃えながら通つた課外授業、全校が熱気に包まれた体育祭、大声を挙げながら拳を振りかざした大進撃。特別なことだけでなく、



当時は当たり前すぎた日常が懐かしく  
思い返されます。その度、同期や先生  
方はいかがお過ごしであろうか、と想  
いを馳せております。

私は東京の大学に進学してから3  
度、東京桑野会の懇親会に参加しまし  
た。初めて友人と共に飛び込んだ際  
には、学生会員はほとんどおらず、大先  
輩ばかりの中で非常に緊張感がありま  
した。しかし、幅広い期の先輩方から  
お声掛けいただき、また昨年には同期  
や後輩とも集まることができ、とても  
楽しく充実した時間を過ごさせていた  
だいております。東京桑野会のみなら  
ず、会報で懐かしい名や顔を目にする  
ことがあり、嬉しい限りです。このよ  
うな卒業してからの縦・横のつながり  
の深さは、安積高校ならではのもの  
でしょう。

高校を出てからは、自分の「所属」  
というもの、多様で不明瞭なもの  
となる気がしています。大学、勤務先、  
家庭…年齢とともに様々な肩書を塗り

重ね、私たちはそれを自分のアイデン  
ティティとして生きていくでしょう。  
皆で狭い教室に机を並べていた「安高  
生」だったあの頃とは違い、各々の  
ペースでそれぞれ全く異なる道を歩い  
ています。同期でも、既に会社勤めを  
している人もいれば、私と同様に当分  
学生の人もあります。それゆえ、たと  
え共に学んだ同期であっても、この先  
にもう会うことも言葉を交わすことも  
ない人すらいるでしょう。そうかと思  
えば、東京桑野会の懇親会のように、  
先を歩む先輩方の人生と交差する機  
会もあったりします。

私たちは、道なりも世代も別々の人  
生を変化し続けながら歩んでいます。  
しかし、その土台には、時代も個人も  
超えた、安積高校というプレートが存  
在することが折々感じられます。人は  
誰しも、心の帰る場を求めることが  
あるのではないのでしょうか。私たち  
には、安積高校という共通のふるさ  
とが存在します。そのことは、無意識  
に今の私

たちを作っていると共に、ふと人生に  
立ち止まった時の支えとなるものだ  
と私は感じています。ですから、これ  
からも定期総会や会報といった、つな  
がりを感じられる機会を大切にしてい  
たら良いな、と思います。(懇親会は  
若手がもう少し参加しやすい日取り  
だとありがたいです…)

世代を超えて学び舎を共にした、同  
期、先輩方、そして後輩が、今日も  
どこかで健やかであることを願って  
おります。次にお会いできることを  
楽しみに、胸を張って皆様にお会い  
できるよう、私も日々を精一杯生  
きてまいります。

敬具

(青山学院大学学生)

## 御前崎雑感

芳賀 雅美 (86期)

石油元売り大手に技術系として39  
年間勤務し、2016年3月に退職した。



## ありがとう20周年 WINpharma

ウインファーマは神奈川・福島・群馬・栃木・埼玉・千葉・  
茨城・東京・愛媛に45店舗を展開する調剤薬局です

～人と人とのつながりを愛します～

地域のかかりつけ薬局を目指します

各地区45店舗 どちらの医療機関の処方せんでも受付ています

福島県内

ウイン調剤薬局(郡山・矢吹・天栄・白河・いわき・保原)

★2019年3月 復興支援地区・ウイン調剤薬局南相馬店オープン

(有)ウインファーマ 横浜市港北区日吉本町1-28-7(☎045-620-4681)

ウインファーマ(株) 郡山市駅前1-9-1 松風堂ビル(☎024-921-8007)

ウインファーマグループ代表取締役 **藤田 勝久(82期)**

最後の10年間は石油とは程遠い、電子材料の開発と製造に携わった。そしてラストの3年間は、単身赴任にて静岡県御前崎市にある電子材料生産工場で勤めを終えた。

私がこの御前崎で生活した雑感を思い付くまま述べてみたい。「御前崎」と言えば、灯台・台風の通り道・原子力発電所を想像すると思う。その通りであるが、御前崎市が合併で市制となったのは2004年4月と、意外に新しいことはあまり知られていない。灯台や漁港のある旧榛原郡御前崎町と、原発のある旧小笠郡浜岡町が合併したのである。面積65.5km<sup>2</sup>で、人口は32,572人(2015年国勢調査)と、かなりコンパクトである。

勤務した工場は旧浜岡町の西部、掛川市との境界に近い場所に位置し、原発まで直線で5kmの近距離。工場の屋上に上ると、原発の建屋が見える。付近には化学工場や肥料工場、自動車部品工場などがあり、畑も広がっている。すぐ南側は国道150号線が通り、4車線化が進んでいる。さらに国道の南側には砂丘が延々と連なり、風力発電の風車が多数建つ。東日本大震災の後に増設されて、東西10kmほどの距離に30基以上はありそうだ。工場にいても風車の低周波音が不気味に響き、再生可能エネルギー政策も騒音までは想定していないのかと、不思議に思った。

御前崎には鉄道がない。工場からの最寄駅は東海道本線の掛川駅で、新幹線こだま号停車駅でもある。それでも工場から駅まで20kmあり、タクシーで30分、路線バスでは50分はかかる。しかしかつて御前崎には鉄道があったようだ。1970年8月に完全に廃線となったが、静岡鉄道駿遠線と言った。未電化の単線軽便鉄道である。JR藤枝駅から海沿いを南下し、御前崎を経由してJR袋井駅へ至る60kmの路線である。御前崎に赴任して2ヶ月程たっ

たある日TVを見ていたら、「にっぽん鉄道跡廃線歩き旅(テレビ東京)」という番組で、お笑い芸人のU字工事の二人がちょうどこの駿遠線跡を『ごめんね、ごめんね〜』と言いながら歩いていた。そこで興味を持って、付近の鉄道路線跡を詳しく調べたのだが、なんと工場近くに駅のプラットフォーム跡や国道沿いの線路跡、鉄橋の橋げた、トンネルなどを次々と発見したのである。ユーチューブで検索し、かつての車両が走る様子を動画で見ることができた。マイカーの発達で利用者が激減したため廃線に追い込まれたわけであるが、今思うともったいないと感じた。

さて中部電力浜岡原子力発電所についても触れたい。ご存知の通り、2011年3月の東日本大震災の直後、当時の菅直人首相が強制的に運転停止させたことで有名になった。1号機から5号機までの5つの軽水炉型原子炉を保有する。1号機と2号機は、震災前に運転を終了し廃炉が決定した。国内でも廃炉作業が進んでいると言われている。6号機(138万kW)建設計画もあったが今は完全に頓挫しており、3号機～5号機の運転再開の目途も立っていない。

ない。震災後に耐震と津波対策の強化を指摘され、非常用ディーゼル発電の電源や重油タンク位置の変更、防波壁の設計変更を余儀なくされた。非常用電源設備は高台に移動し、防波壁は標高22mまで積み上げられた。万一津波が原子炉建屋まで押し寄せても、水密扉で遮断するとした。中部電力は膨大な費用をかけ耐震・防波設備の投資を行ったが、東海地震の震源上に原発があるとして再稼働反対の意見も根強い。安全対策のPRとして、地元近隣住民への見学会や説明会がたびたび開かれた。私も見学会に紛れて発電所内に入ったが、防波壁は最初の改善が18mまでだったため、そこまではコンクリート造りの頑丈な堤が造られていたが、その上の4mは薄っぺらなモルタルブロック壁の積み上げにしか見えず、津波の圧力に耐えられるのか不安が残った。水密扉も通常は開いており、非常時にうまく閉まるのかも不安で、被災時の対策拠点となる免震棟制御室も原子炉建屋に近く、これで大丈夫? 非常時に孤立しない? という疑問が残った。ちなみに水密扉の性能検査を実施したコベルコ科研(神戸製鋼の子会社)の検査報告書に誤りが発見され



御前崎灯台



自然の堤防上の風力発電



浜岡原発 PR 館



浜岡原発建屋

たと、原子力規制委員会が昨年7月に発表した。改ざんはなく単純に計算ミスと言いつけているが、親会社のやっていたこと（鋼鉄の性能虚偽報告）を考えると信用できない。地元のうわさでは、骨材試験の虚偽報告や近隣自治会への不透明な補助金バラマキ、重大トラブルの隠ぺいといった疑惑も浮上している。工場勤務中に、防災無線で「浜岡原発で火災報知器が作動」とか「浜岡原発で救急車出動要請」などと放送があるたびにドキッとした。3号機と4号機は再稼働申請中で、原子力規制委員会の動向に注目したい。

ともあれ御前崎では何事もなく無事に勤め上げた。会社員生活を終えて一線を退き、首都圏の自宅に戻ってもっぱらの生業は孫2人の遊び相手である。これもまた人生かな。

(出光興産(株)非常勤)

## 私の学生生活

### 横山 桃子 (130期)

伝統ある安積高校の東京桑野会報のNo.41に掲載させていただくこと誠に感謝します。

私はご存知の方も多いと思うが運営の人にたまたま声をかけられたことがきっかけで大学のミスコンテストに出場したことがある。そのミスコンがきっかけで今、キャンパスラボという全国のミスコン出場者が集い女性と若者という視点から社会問題に解決して

いく凸版印刷株式会社主催の学生団体で活動している。キャンパスラボのお陰で様々な経験を積むことができた。例えば神奈川県海の魅力や海洋問題について知るためにテレビ神奈川と共同で海にまつわる施設に取材に行ったり、東京オリンピックにむけて海外の人に喜ばれるボランティアについてアイデアを出し合ったり、とある企業の販促コンペにも参加した。これらの活動を通して実際に社会問題に触れ合うことで物事に対して広い視野や考えを得ることができた。

最近では東北ラボという東北の文化や地域を活性化させる東北出身のミスキャンが集まるグループをラボの先輩と立ち上げ、より東北に若者が興味を持ってもらえるように活動に勤しんでいる。また私は大学の国際学生寮に住み、留学生との交流をととても大切にしている。みんなでナイトドライブや温泉、ディズニーに行ったりハロウィンパーティーやスキー合宿に参加したり

して交流を深めている。このようにとても充実した日々を送っている。充実した日々の背景には高校での失敗や大学でのミスコンの経験が大きく関わっていると思う。

私は高校では落ちこぼれで、ましてや高3の春の2者面談で担任から「勉強してもできない」とはっきり言われ部室で泣きまくり、すべての人に引け目を感じ細々と生きていた。

高校での細々生活から脱却して大学ではキラキラと希望に満ちた新しい生活を送りたいと思っていた。だから高校での失敗はある意味、いいコンプレックスとなり挑戦の活動源となった。

大学では3つの目標をきめて行動するようになった。

1つ目は自分の専門分野をきわめて、自分の力で何か物が作れるようになること。

2つ目は大学がスーパーグローバル大学ということを利用して国際交流の



21世紀をリードする  
安積SPIRIT!

### 浅川 章 (76期)

東京桑野会副会長  
〒338-0821さいたま市桜区山久保2-18-3  
電子メール: chobi@hyper.ocn.ne.jp

### 村山 俊司 (61期)

自宅:東京都町田市金井3-13-7  
TEL: 042-734-8876

医療&社会保障再生目指して  
楽しく笑える講演を提供中  
お気軽にご依頼ください。

### 本田 宏 (86期)

元埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐  
NPO法人医療制度研究会 副理事長  
弘前大学講師・立教大学兼任講師  
日本医学会連合労働環境検討委員会委員  
hondahiroshi@me.com 090-3205-9482

場を多く作り英語ができるようになること。

3つ目は今しかできないような経験を沢山することであった。

この3つの目標を軸に推薦書を書いて応募する倍率の高い国際寮に応募してみたり、ベトナムの大学の学生と共同で電子機器を作ってみたり、ミスコンに出場してみたり、芸能活動してみたり、とりあえず今しかできない様々な活動に挑戦した。そこから様々な失敗はしたが私の視野や人の出会いを広げるきっかけとなり、失敗がさらに私の活動源となり日々新しく大きな事ことに挑戦する野心に変わっていった。例えば、ミスコンだ。優勝のためにTwitterや動画配信などやれることはすべてやったが賞は獲れなかった。結果的にはうまくいかなかったがキャンパスラボという最高の場を得ることができた。これもミスコンで悔しい思いをし、ミスという肩書でもう一度何かに挑戦してみたいと思えたからである。

私はこれからも3つの目標を軸に様々なことに挑戦したいと思っている。具体的には学生のうちに電気主任技術者の資格取得と語学力の向上を図り、最終的には海外で何かできればよいと考えている。求める道はいつも厳しい道で失敗することは何度もあるが挑戦の精神でこれからも挑んでいきたい。こんなむちゃぶりの私を支えて応援してくれる家族にはとても感謝している。ありがとう。

こんな私に声をかけ東京桑野会会報掲載まで導いてくれた東京桑野会広報部の方々には感謝しています。ありがとうございました。

(芝浦工業大学学生)

## せんべろ会

### 鹿田 征歳 (102期)

中庭を囲んで、誰かれ構わず肩を組んで応援歌斉唱。安積時代の最高の思い出です。寄稿に際して、この日(紫旗祭)の記憶を辿ろうとネットで検索すると、後輩達による現在の様子がYouTubeにアップされていました。女子がいることや、肩は組んでいない等の変化はありますが、あの高揚感の世代を超えた共有に感動しました。そんな高校時代の話を、妻はとても羨ましがります。子供のお受験を控えた妻にとって安積高校は気になるらしく、図に乗る私も、テレビに映る大臣を見て「あの人も先輩だよ」などと吹聴するので尚更のようです。いずれにしても、自慢できる文化や人脈が母校にあることは、改めて凄い事だと思えます。

さて、安積時代の私は、下宿暮らしだったので、次に、その時から始まった不思議な縁や出会いの話を紹介します。始めの登場人物は、別の下宿で暮らす安積の同期A君です。彼は、夜な夜な私のビデオ再生機を目当てに窓から遊びに来ました。玄関を通らず

男子高生が見に来るビデオなんて何の役にも立つ筈がなく、案の定、揃って浪人する憂き目にあいました。浪人中は、お互い東京の予備校に居ながら、全く連絡を取り合っていなかったのですが、今にして思えば、ビデオも二人黙って観ていたり、君付けて呼び合ったりと変わった距離感の付き合いでした。そんな彼を再び見たのは、法政大学の受験当日。複数ある受験会場で最も広い多摩キャンパス。その複数棟ある校舎の同じトイレブースを待つ列の中に彼を見つけました。結局、私は建築学科、彼は電気電子工学科生として、その大学で修士までの6年間を再び一緒に過ごす事になりました。こうして続く腐れ縁ですが、まだ終わりません。修士を終え私が勤めた東京の設計事務所に、同じく東京の電機メーカーに勤めたA君が、協力エンジニアとしてちょくちょく来社。全く別会社に勤めた筈が、私の上司はA君を知っていて、彼の上司は、私と一緒に合コンしたりもしました。

最近では、せんべろ会と称し、再び夜な夜な会っていたのですが、ある店では、「お前らの後輩来たぞ」と店主が言うので会ってみると、113期の青木雄司君。また別の日には、あるご夫婦との会話から、彼らのテニスの先生が同期のK君であることが判明。これらが縁で、新宿の小さな沖縄料理屋が2度の臨時東京桑野会会場になりました。ちなみに、後輩の青木君とはその後も何度か会い、この度、同時に寄稿

## 小濱 精吾 (58期)

(MOTOMIYA出身)

晴海パートナーズ法律事務所

弁護士 後藤 大 (107期)

マネージングパートナー

〒104-0045

東京都中央区築地2-15-19

ミレニウム築地6階

E-mail: gotodai@harumi-partners.jp

「晴海パートナーズ」で検索ください

TEL: 03-6264-1588 / FAX: 03-6264-1589

あらゆる**木質の床**を心を込めて施工します。  
○K工法(床工事・内装工事)・割製床・乾式器床・フローリングボード  
フローリングブロック・線床・ネダホーム・OAFフロアーその他工事

**木質床(フローリング)施工**  
**孝和建商株式会社**

千葉市中央区汐見丘16番12号

取締役総務部長 **小林伸久(84期)**  
電話: 043-245-4111 FAX: 043-244-9550  
携帯: 080-2045-0962

E-mail: nobuhisakoba@dooomo.ne.jp

する偶然。新たな腐れ縁の予感です。ところで、先の店主にせよ、ご夫婦にせよ、安積の名を覚えてくれたからこその出会いだったのですが、それ以前に、見知らぬ人にまで、安積の名を覚えさせるほど母校について熱く語った安高生が自分以外に居たことに、強い喜びを覚えざるを得ません。本当に誇らしことだと思います。

さて、最後に私の近況ですが、勤めた会社から独立し、所沢で設計事務所を営んでいます。なにかと関係者も多い建設業界ですが、もし、そこで安積を語る者が居れば、それは私かもしれません。そして、それが新たなご縁の始まりとなれば、それに勝る喜びはないと思います。 (ああす設計室)

## つながり

### 安孫子 哲教 (115期)

私が安積高校を卒業して17年が経った。今思えばあつという間の年月だったが、思い返すと、私の人生は、安高のつながりなしに語ることはできない。安高の先輩、同期、後輩とのつながりの中で生きてきた。特に、先輩方とのつながりが密なのは、安高ならではのであると思っている。ここまで先輩・後輩の枠を取っ払っての付き合いの場が設けられているのは、そうないであろう。そんな場が東京桑野会である。東京桑野会に参加するきっかけは、大学時代同じ学部に通う安高同

期の誘いからだった。当時大学生だった私は、面白半分で行ってみたのだが、様々なバックグラウンドを持った先輩方が参加されており、色々な話を伺うことができた。そして、先輩方が何よりパワフルであることに驚かされたのを未だに覚えている。

そんな中、私は司法試験を志すに至り、受験回数最後の年、東京桑野会で知り合った先輩の弁護士から、事務員として働いてみないかとお誘いを受け、実際の実務がどのように運用されているのか、生で見るいい機会であると思い、働かせていただくことにした。結果、最後の年も不合格となってしまい、このまま勉強を継続するか諦めるか決断する瞬間が訪れたが、事務所での先生方の仕事を拝見していて、どうしても諦めることができず、勉強を継続することを決意した。本来であれば勉強の兼ね合いを考えながら働くことは許されないことだが、先輩の弁護士は、勉強とのバランスを取りなが

ら引き続き働かせていただくことを快く受け入れてくださった。そして、昨年晴れて司法試験に合格するに至った。受験回数を失ってまでも最後まで諦めずに勉強を続けることができたのは、実際に弁護士の仕事を生で見させていただく機会を与えてくださり、勉強のモチベーションを維持することができたからである。恐らく、事務所で働かせていただく機会がなければ、私は早々に司法試験を諦めていたと思う。そのような機会を与えてくださった先輩には本当に感謝してもしきれないくらいである。これも安高のつながりがあったからこそだと切に思う。

もちろん、若手のつながりも最近ホットである。東京桑野会に派生した形で若手会(100期以降の集まり)というコミュニティーがあり、定期的に集まり交流を図っている。東京桑野会とはまた違った形で、かつ、より近い関係で安高の輪を広げることができる場である。ここでも様々な職種、パッ



## 石井総合事務所

司法書士・行政書士

### 石井 俊一 (82期)

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15  
青柳ビル7階  
TEL :03-3289-1411  
FAX :03-3289-1422  
E-mail : s-ishii@e-1411.com  
http://www.e-1411.com

## 安高は自分の心の拠りどころ

医療法人社団 松弘会  
トワーム小江戸病院

### 院長 医学博士 渡辺 哲弥 (70期)

(練馬区東大泉7-14-15)

## 古川 清 (63期)

クグラウンドを持った先輩・同期・後輩が参加しているの、様々な刺激を受けることができる。若手会としては、今後いかにして東京桑野会に若手を増やすか試行錯誤しているところであり、まだ参加したことがない若手の方は、まず若手会を足掛かりにしてください、今後は是非参加していただけたらと思う。

このように安高とのつながりを持つ場が近くに存在しているのであるから、これを利用しない手はないと思う。私は、そのつながりにいつも救われている。また、それだけではなく、参加するだけで色々勉強になるし、刺激をもらうことができ、自分を高めることもできる。今後も安高のつながりを大切にしていきたいと思う。

## 安積歴史博物館便り

橋本 文典 (84期)

今回も安積歴史博物館からのご報告をさせていただく機会を有難うございます。ご承知のように、安積歴史博物館は「旧福島県尋常中学校」を多くの方々にご覧いただくことを目的の一つとして「学校創立百周年」を記念して開館いたしました。

明治22(1889)年3月、福島にあった中学校がこの地桑野に移転することになり、新たに校舎が建設されてから今年で齢130年を迎えます。この間、建物は大小さまざまな傷を負うこ

ともありましたが、その都度卒業生はじめ多くの皆さまのご援助を賜り、昭和52年には重要文化財としての榮譽もいただいております。生き物と異なり、所謂「自然治癒力」は持ち合せておりませんので、全てにおいて皆さまの、特に卒業生はじめ関係者のご支援が薬石となっております。8年前には大震災という思わぬ大怪我を負ったものの、これも又皆さまのお力により修復することができ、併せて外部塗装というお化粧直しも叶いました。

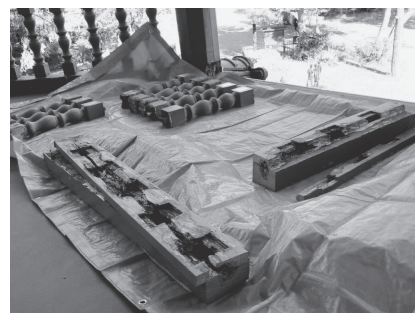
しかし、風雪や紫外線による劣化や剥離は思いのほか早く、特に南側窓枠下部は雨水が溜りやすいため、傷みも激しいものとなりました。館全体を再塗装することが可能であればそれに越したことはないのですが、取り敢えずこれ以上被害が広がらないようにするため、平成30年度は南側窓枠下部の塗装と傷みが大きいバルコニーの手摺を対象とした、部分的な補修を実施致しました。これは外見上特に傷んだ部分を補修するという文化庁の「美装化計画」に基づいた事業です。費用は、半額を国からの補助で賄い、一部を郡山市から、残りは所有者の当財団が負担しました。(安歴博写真を参照)

部分的とはいえ文化財の補修工事は一般の補修工事とは異なり、材料や技術にも制限があります。手摺部分では当時の、もしくは以前の部材を極力残し、腐朽した部分だけを交換したり継いだりする技法が用いられ、大工仕事にも熟練が要求されました。塗装につ

いても然り、一旦これまでの塗膜を剥し、木部の凹凸をパテで均一にし、補修しながら再塗装しました。色彩も周辺部と違和感のないように仕上げる作業となりました。

一方で補修前には、本格的に取り組む必要のある箇所も見つかりましたが、現段階で建物そのものに与える影響は小さいということで次の機会を待つことに致しました。

今年で創建130年。その長い時の中で多くの若者が共通の時間を過ごし、学び、悩み、喜び、涙し、その一コマ一コマを全て受け入れ見て来た旧本館です。映像や写真に残ることも有意義ですが、直接目にすることができるこの旧本館を訪れ、ぜひ肌感覚で建物を味わってみてください。



安積歴史博物館修理の様子

## 土日会創立会員

高松 ゆたか(74期)

土日会定期展

2019年12月11日(水)~23日(月)まで土日会展  
国立新美術館 出展作品 チャグチャグ馬コ  
(194×584cm)

奮い立て我健男児

大矢 真弘 (88期)

## 労働保険の特別加入

1人親方労災保険加入のご用命は！

労働保険事務組合

神奈川SR経営労務センター

会長 佐藤 重夫 (79期)

(特定社会保険労務士)

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36

朝日生命横浜本町ビル8F

TEL: 045-212-5269

FAX: 045-212-3177

<http://www.kanagawa-src.gr.jp>

維持管理は容易ではありませんが、今後も皆さまのご厚情を賜りご次世代に引き継ぎたいと思います。ご支援よろしくお願い致します。

(公益財団法人 安積歴史博物館  
業務執行理事)

## 朝河貫一顕彰協会便り

### 矢吹 晋 (70期)

朝河貫一博士は1948年に死去したので、2018年8月11日は没後70周年の命日にあたります。これを記念していくつかのイベントが行われました。

皮切りは、①福島県立図書館で開かれた企画展示「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後70周年記念展～」(6月8日～9月5日)です。そのオープニングセレモニー6月8日11:00から図書館エントランスホールで行われ、顕彰協会から糠沢事務局長と矢吹代表理事が出席しました。

②翌6月9日には早稲田大学文学学術院甚野尚志教授による記念講演「ふくしまから世界へ～国際人・朝河貫一の歩み」が行われました。

③早稲田大学大隈記念大講堂では、7月21日～22日に、シンポジウム「朝河貫一 一人文学の形成とその遺産」が行われ、

④そのシンポジウムの郡山版として、7月23日に「没後70周年記念シンポジウムIN郡山～朝河貫一博士からのメッセージ」が郡山市民文化セン

ターで朝河貫一博士顕彰協会の主催で行われました。古川、糠沢、矢吹等が参加しました。

⑤8月4日～8月12日には二本松市教育委員会の主催により、「朝河の道パネル展」が二本松市市民交流センター3F市民ギャラリーで行われました。

⑥8月11日には、福島県教育委員会の主催により、「ふくしまが生んだ偉人の功績を語る」講演会が、とうほう・みんなの文化センターで行われ、甚野尚志教授が講演しました。

⑦10月20日には東京国際文化会館で明石康、安齋隆、浜田宏一氏を発起人とする没後70年シンポジウムが行われ、これには各界から多くの有名人が出席しました。顕彰協会からは古川会長、糠沢事務局長のほか、矢吹等が出席しました。二本松の三保市長、郡山の品川市長なども出席しました。

⑧11月10日に前掲甚野尚志教授および浅野豊美教授(早大政経)等を発

起人として「朝河貫一学術協会」の発足記念ワークショップが行われ、朝河史学・朝河国際関係学を研究する呼びかけが行われました。第2回ワークショップは2019年1月26日に行われました。第3回は4月に予定されています。朝河の母校・東京専門学校の後身、早大で学術研究が始まることは慶賀の至りです。

(朝河貫一顕彰協会代表理事)

## ホームページの 運用状況報告

—創設16年目の活動と  
アクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

### 芳賀 雅美 (86期)

(東京桑野会ホームページ委員長)

今回より、改訂内容とアクセス状況の結果のみ簡略に掲載する。昨年度についても障害やトラブルは全く発生せ



株式会社開成プランニング 代表取締役  
(<http://www.kaisei-planning.co.jp>)

### 和田 正哉 (77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2  
勤務先電話: 03-3230-8001  
FAX: 03-3230-8550  
携帯: 090-3236-3883  
e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp  
携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp  
自宅電話: 047-332-2287

ごうや  
山田・合谷・鈴木法律事務所

### 弁護士 鈴木 修一 (89期)

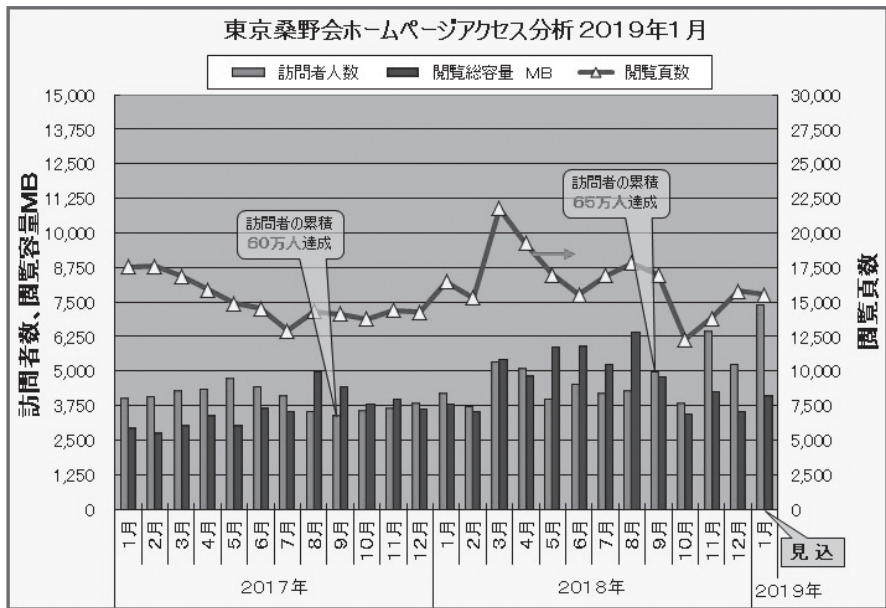
〒100-0012  
東京都千代田区日比谷公園1番3号  
市政会館1階115号室  
TEL: 03-3501-0451  
FAX: 03-3501-0452  
E-mail: shuitisuzuki@nifty.com  
<http://www.yamada-law.gr.jp>

株式会社櫻井計画工房

取締役 一級建築士

### 櫻井 淳 (78期)

郵便番号: 231-0014  
住所: 横浜市中区常盤町2-10  
常盤不動産ビル2F106  
TEL: 045-663-9271  
FAX: 045-663-9273



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

ず、平穩無事にホームページを運用することができた。この何事もないことがホームページ運営において重要であることを改めて強調したい。ご利用いただいた会員の皆様に深く感謝を申し上げる。

16年目についての改訂や追加コンテンツについては以下の通り。

- (1) 会員投稿のブログ形式記事を4件掲載した。人類学者移川子之蔵氏の紹介、母校安積高校校長の挨拶、安女OG合唱団《安積フィメールコール東京》の紹介、東京学生寮の生い立ちである。
- (2) 安積OBクイズを追加改訂し、3名増の41名とした。クイズ挑戦

者数は、昨年12月には13000人を超えた。

- (3) 朝河貫一博士没後70年記念行事について、各地で開催された複数のイベントを紹介して掲載した。
- (4) 例年通りではあるが、会長の新年度ご挨拶、役員・幹事名簿の更新、総会・懇親会の結果報告、夏の甲子園野球福島県大会組み合わせの紹介についても、引き続き改訂して掲載した。

次いで当会ホームページへのアクセス状況について詳述する。

- (1) 過去2年間分についてグラフで示しておく（別掲の図を参照：今年1月は見込みの数値）。

- (2) グランドオープン以来、昨年9月に訪問者総数が65万人に達し、今年3月には閲覧総頁数が300万ページビューに達する見込みである。
- (3) この1年間の平均で、月に訪問者5024人、閲覧総頁数16595頁で推移しているが、訪問者数で前年比26.1%の大幅増、閲覧総頁数で前年比12.1%の増となった。

訪問者数はロボット投稿攻撃の年(2007年度)を除けば、過去最大となったが、閲覧総頁数は昨年度よりは盛り返したものの相変わらず低迷した。とにかく昨年度がひどく低迷していたので、見かけ増加となっている。なんとか月間平均で閲覧総頁数2万ページビューを越えたいと個人的には考えている。訪問者数が増加したのは、グーグルやヤフー検索にヒットする確率が高くなり、「桑野会」というキーワードでもトップ3を当会の頁で独占できるようになったことが大きい。しかしオープニング頁やトップメニュー頁を開いても素通りしており、全般的に言って中身へのアクセス数が低調で伸び悩んでいる。引き続き会員の皆様のご協力を賜りたく切に望んでいる。またコンテンツや情報の提供につきましても、随時事務局へご連絡頂きたく、再々であるがご協力についてこの場を借りて改めてお願いをしたい。ホームページは鮮度管理が大切であることは言うまでもない。(出光興産(株)非常勤)

弁護士 齊藤 英彦 (69期)

株式会社 富士ハイエンジニアーズ  
一級建築士事務所

代表取締役 (管理建築士) 遠藤 修 (67期)  
(一級建築士)  
(一級建築施工管理技士)  
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号  
☎: 044-988-7387 携帯:090-3212-2892  
FAX: 044-988-7547  
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)  
Watanabe Ryuichiro

〒170-0004東京都豊島区北大塚2-31-5-513  
Phone : 090-1429-6127  
E-mail : watanabe2021@ryu.bz



## 平成 29 年度決算報告書

I 収支計算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	決 算 額	予 算 額
<b>収入の部</b>		
(1) 前年度繰越金	349,201	349,201
(2) 年会費収入	929,000	1,000,000
(3) 総会費収入	940,000	1,000,000
(4) 協賛広告料	310,000	310,000
(5) 受取利息	4	4
(6) 雑 収 入	60,000	30,000
収入合計	2,588,205	2,689,205
<b>支出の部</b>		
(1) 総会懇親会費	950,403	1,100,000
(2) 通 信 費	41,665	50,000
(3) 会 議 費	0	0
(4) 会報作成費	362,664	362,664
(5) 会報発送費	282,936	282,936
(6) 事務消耗品費	115,303	150,000
(7) 母校後援費	0	20,000
(8) 冠婚葬祭費	0	20,000
(9) 支払手数料	39,462	50,000
(10) 人 件 費	380,000	380,000
(11) 交 通 費	40,000	50,000
(12) 名簿編集費	0	0
(13) ホームページ・広報部会運営費	34,960	40,000
(14) 雑 費	0	10,000
(15) 予 備 費	0	50,000
支出合計	2,247,393	2,565,600
次期繰越金	340,812	

## 平成 30 年度予算案

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

	予 算 額
<b>1 収入の部</b>	
(1) 前年度繰越金	340,812
(2) 年会費収入	950,000
(3) 総会費収入	950,000
(4) 協賛広告料	310,000
(5) 受取利息	4
(6) 雑 収 入	30,000
収入合計	2,580,816
<b>2 支出の部</b>	
(1) 総会懇親会費	1,000,000
(2) 通 信 費	50,000
(3) 会 議 費	0
(4) 会報作成費	354,780
(5) 会報発送費	275,119
(6) 事務消耗品費	130,000
(7) 母校後援費	20,000
(8) 冠婚葬祭費	20,000
(9) 支払手数料	50,000
(10) 人 件 費	380,000
(11) 交 通 費	50,000
(12) 名簿編集費	0
(13) ホームページ・広報部会運営費	40,000
(14) 雑 費	10,000
(15) 予 備 費	50,000
支出合計	2,429,899
次期繰越金	150,917

## II 財産目録 (平成30年3月31日現在)

### A 特別会計

事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行) 1,067,742

### B 現預金

(1) 普通預金 (三井住友銀行) 230,303  
 (2) 郵便振替貯金 101,987  
 (3) 現金 8,522

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成30年4月3日

会計監査 関 根 健 治

### 【協賛広告のお願い】

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。お問い合わせは事務局まで。

### 【事務局からのお願い】

会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきてしまいますので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいますようお願い申し上げます (東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

### 【会費納入のお願い】

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

## 編集後記

### 《躍動する作品》

今回も、母校美術クラブ学生の作品は、タイミング上不都合でした。

いつものように、美術科教員の櫻村俊智先生98期が自らスケッチされ、作品を提供していただきました。

櫻村先生のスケッチは、メモリー的スケッチを乗り越え、絵画作品と言って差し支えない挿し絵です。その証拠に、勢いのある筆跡から、一枚の絵として生き生きと表現されているからです。その意欲ある観察が、校舎も木立ちも、彫刻も、熱気を帯びた体温とともに、響いてくるようです。

余談ですが、あの明治・大正・昭和の安積健児の立像の作者、平成31年5月4日103歳になられる“佐藤静司”先生45期は、お元気です。ご本人とは会話できませんでしたが、ご長男が電話で応答していただき、付き添い付きですが自活されているとのこと、ご参考までに書き添えました。

会報の新風を期待して、自薦：他薦の新しい作家の挿絵の提供をお待ちします。(74期 係 高松ゆたか)

暖冬だと言われていたのに都心でも雪が降り、歳のせいか気温が氷点下と聞くだけで震えがくる。でも子供の頃の郡山は今よりもっと寒かった。部屋の中でも洗濯物が凍り付き、毎朝通学するのも雪の中という日が多かったと記憶している。

さて、先輩達から引き継ぎNo.27号から会報の編集に携わった。今や鬼籍となった水口さんや増子さんとも親しくさせていただき、編集のご指導を賜ったことを懐かしく感じている。そろそろ世代交代の時期がやってきたよ

うだ。前任からの世代差が15年以上あるので、後任は少なくとも100期生以降になる。我々がふるさとを離れた半世紀前は、東京から車で5時間も6時間もかかったが今や新幹線で1時間と少して郡山に到着する。この時間距離短縮の影響で、ふるさとの絆は希薄になってしまったのだろうか。若い世代の安積に対する想いは我々とは少し異なるように感じる。

東京桑野会の存続は年寄り集団ではなく、今や100期生以降の若手会員にかかっている。若手に負担をかけないようにフォローしつつ、引退を視野に入れて実務を引き継いでいきたい。

(がっちゃん)

編集後記を書くころには、必ず花粉の季節である。若い時に比べて、反応が鈍くなったのか、葉が効いているのか、少し付き合い方もうまくなったようである。今年の桑野会報で、特に若い女性の皆さんの原稿を読ませていただいた。皆さんが頑張っている様子が頼もしい。やっば安積健女児(?)であると思う。この卒業期だと、自分の期の引き算をしながら、女性の後輩も随分大人の後輩が増えたなという感想である。男女共学になったのがつい最近だと思っていたが、大分時間が経過したなと感じた。／古川会長の巻頭言で、戦争中安積が東芝の工場になったことは初めて知った。近頃、時代が少しきな臭いがまだ平和を享受できることが救いだ、子どもたちの教育の場が、軍需工場になるような間違いは2度と起こしたくない。／物故者の欄を見て、丹治則男(81期)さんを思い出す。本当に良くこの会報の編集を一緒にやった。彼は産経新聞の政治部の記者で、記事のとり方は凄腕だった、問題があるとすぐにその場で電話を

し、処理する。その癖は彼に教わり、その後の私の仕事に役立っている。あの頃は桑野会の会報編集で遅くまで飲みすぎ、彼の原稿を書くホテルに泊めてもらったこともあった。昨年の5月に亡くなった。最近見えないなと思っていたが、ご冥福を祈ります。

(78期・副会長・櫻井淳)

涙ぐましい編集子の功によって、会報本号も日の目をみることができました。

会報が届く会員諸氏におかれましては、どうぞ一瞬でも結構です。編集に携わった先輩後輩と想いを共有してください。

困難な社会と向かい合い悪戦苦闘している者同士、同じ学窓を巣立ったからといって、なまじ連帯感を抱き続けるのは至難のわざと云えるかもしれません。

それでも安積という「小窓」を通して、ひとすじの自分の歴史をつくることの意味は必ずあるはずと考えます。(蹲踞)

平成最後の会報です。新天皇陛下は、同学年です。新天皇陛下とともに91期は頑張ります。(GF91)

---

『東京桑野会会報』No.41

2019年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-9-5

東園ビル7階

新神田法律事務所内

Tel03-3252-9671 Fax03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel03-3635-4510 Fax03-3635-4515

---